



研究室から深海探査機をリモートコントロール

ROV (Remotely Operated Vehicle) は母船上のコントローラー操作で海の環境や生物を調べることができる深海探査機です。しかし深海用ROVは母船と結ぶケーブルが太いので、大きな船上装置が載る母船を用意する必要がありました。そこで今回それを解決するために、母船との通信に細線光ファイバーを用いるUROV (Untethered ROV) と衛星を利用した新たな方法が開発されました。

海洋工学センター巡航探査機技術研究グループの吉田弘サブリーダーは、UROV型小型深海探査機MROVを、衛星を介して遠隔操作する技術を開発しました。UROVは船上装置を小

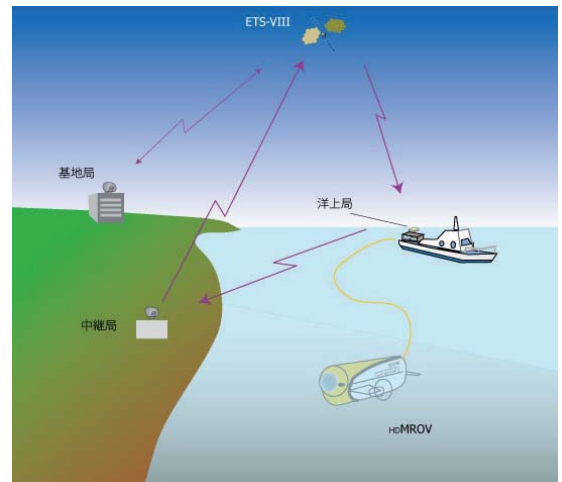
型化して小さな船に搭載できます。また、モバイル通信用の技術試験衛星VIII型 (JAXA、NICT) の利用により、揺れの大きい小さな船でも通信が途切れないようになりました。

その結果、試験では当機構横須賀本部から直線距離にして約20km強にある油壺湾で潜航中のMROVの遠隔操作に成功しました。

今後は浮上中のAUV (Autonomous Underwater Vehicle : 自律型無人探査機) の遠隔操作ができることを確認する予定です。また、衛星通信装置は小型化されている

のでブイ等に搭載し、母船なしで無人探査機を遠隔操作する可能性も期待されています。

(海洋工学センター/Y)



海洋地球研究船「みらい」 コック長の料理教室 ～船で人気のドライカレーと一緒に作ってませんか！～

むつ研究所では、海洋地球研究船「みらい」および「むつ研究所」の活動をより身近に感じていただくことを目的とし、長期停泊中の「みらい」司厨部の協力により、船内での食生活の紹介を交えた初めての料理教室を12月9日にむつ市内で開催し、地元の幅広い年齢層から39名の方に参加いただきました。

今回の調理実習では、「みらい」乗船者に人気の「ドライカレー」に挑戦していただきました。

実習に先立ち、大田司厨長から海外での食材の仕入れ方や船内食生活のエピソード等が紹介されました。

実習では、6グループに分かれて、各グループでレシピを見ながら調理をしましたが、なかなかレシピ通りに上手く作れないグループもあり、大田司厨長と浜邊チーフコックが各グループを回り熱心に指導をしてい

ました。

試食では、司厨部が事前に作った「本場のドライカレー、サラダ、スープ、メロン」を食べていただきました。参加者は、プロの味に「自分たちが作ったドライカレーとは見た目も違い、とても美味しい」と、舌つづみを打っていました。なお、実習で作ったドライカレーは、味をよく染みこませて美味しく食べていただくため、おみやげとして自宅に持って帰っていただきました。

試食後には、赤嶺船長から地球温暖化に直結する最新の北極航海のお話を、「北極の氷」「シロクマ」等の写真を交えお話しいたいただき、参加者は皆、熱心に聞き入っていました。

参加者からは、「是非また、このような機会を作ってほしい」

「次回は、普通のカレーや、簡単なコース料理」を作りたいとの要望があり、大変好評でした。

今回の料理教室を通して「みらい」および「むつ研究所」の活動を、今まで以上に、理解していただくことが出来ました。今後もこのような機会を作りたいと思います。

(むつ研究所)





イベント開催報告

●国際海洋環境情報センター 施設一般公開

国際海洋環境情報センター（G-ODAC）では、11月24日（月曜日：振替休日）に施設の一般公開を実施し、約500人の方にご来場いただきました。通常の展示物のほか、「うみとちきゅうの実験教室」や「深海探検」「インデキシング体験ゲーム」「ITこども探検ツアー」などの体験型イベントを実施し、小さなお子様にも楽しんでいただくことができました。また、当日は「海から知る地球温暖化」と題し第28回ゴードック



セミナーも開催しました。なお、2008年11月24日をもってGODACは開所7年目を迎えました。（国際海洋環境情報センター）

●マリエント「ちきゅう」情報館 開館1周年記念開催

11月30日、八戸市水産科学館マリエントにおいて、「マリエント『ちきゅう』情報館開館1周年記念『JAMSTEC活動講演会』」が行われました。広報課米本智仁事務主事による「2008年『みらい』北極航海レポート」及び地球深部探査センター五十嵐智秋技術副主任による「地球深部探査船『ちきゅう』の挑戦」と題した講演が行われ、参加した「ちきゅう探検クラブ」の子供たちは、最新研究成果の紹介を興味深く聞いていた様子でした。（広報課）

●東海・東南海・南海地震の連動性評価研究 シンポジウム

文部科学省委託研究「東海・東南海・南海地震の連動性評価研究」の

一環として、高知市（11月16日）、大阪市（12月1日）、名古屋市（12月2日）にて、ミニシンポジウムを開催しました。各地域自治体の地震・防災の担当者や関係者など多くの参加者が集まり、今後想定される巨大地震に対してどのように対応するかなどについて活発な質疑応答がなされました。（海底地震・津波ネットワーク開発部）

●「再び増加する光化学スモッグと越境大気汚染」公開シンポジウム

11月25日、国際連合大学にて標記シンポジウムが開催され、200名近くのご参加を頂きました。東アジアのオゾン汚染問題とわが国への影響、その解決に向けた方策を考えることの重要性について、行政・研究者両方の立場より講演、討論が行われました。（地球環境フロンティア研究センター）

■ イベントのお知らせ（詳細はホームページ<http://www.jamstec.go.jp/>をご覧ください。）

●横浜研究所地球情報館 毎月第3土曜日開館

横浜研究所では地球情報館（映像展示室、ギャラリー、図書館）を毎月第3土曜日に開館し、公開セミナー等の特別企画を実施しています。この機会にぜひご来館ください。

日 時：平成21年1月17日（土）10:00～17:00

・第91回地球情報館公開セミナー（13:30～15:00 三好記念講堂）

タイトル：海洋動物プランクトンの役割

－「みらい」航海による北太平洋調査研究から－

講演者：喜多村 稔（極限環境生物圏研究センター 海洋生態系変動研究グループ）

・実験教室（10:30～11:00、14:00～14:30）

・「地球シミュレータ」見学ツアー（11:00～11:30、15:30～16:00）

そのほか「相模湾鯨鯨図」、「掘れば出てくる、地球の秘密」の展示も実施中です。

●JAMSTEC2009カレンダー販売中

毎年好評のJAMSTECカレンダーを12月から販売開始いたしました。2009年版は、JAMSTECの各研究センターと拠点の活動を中心に構成しています。ご購入は横須賀本部、横浜研究所、GODACの販売所、ホームページからお願いいたします。

■ 受賞報告

受賞日	賞	受賞者	業績
2008.11.20	2008年度日本気象学会 山本・正野論文賞	地球環境フロンティア研究センター 三浦裕亮 招聘研究員	"A Madden-Julian oscillation event realistically simulated by a global cloud-resolving model"
2008.11.27	全国共同利用情報基盤 センター顕彰（功績賞）	海洋工学センター 有吉慶介 特任技術研究副主任 東北大学大学院理学研究科 長谷川 昭 客員教授	大規模科学計算システムの高度利用技術に関する研究開発への貢献
2008.12.6	第5回（2008年）地球 化学研究協会奨励賞	地球内部変動研究センター カ石嘉人 研究員	植物由来脂質化合物の炭素・窒素・水素同位体の測定と地球化学への応用

■ 編集後記

11月1日、悲しい知らせが世界を巡りました。世界最深部に行った経験を持つジャック・ピカール氏がスイス・レマン湖の自宅で逝去されました。享年86歳でした。ジャック・ピカール氏は、父のオーギュスト・ピカール氏と共に、ガソリンで浮力を得るバチスカーフと呼ばれる大深度潜水船を開発しました。バチスカーフは、ガソリンの使用以外、油漬けの電池や電動機など「しんかい6500」と構造はほとんど同じです。親子で心血を注いで建造した「トリエステ」で、1960年マリアナ海溝における10,916mの潜航をドン・ウオルシュメ海軍大尉と成功させました。その時、彼は地球の底でヒラメのような魚を見たと言っています。多くの生物学者は信じていません。1996年、JAMSTECを訪れた彼が、ヒラメの質問に対し、「写真も撮影したのに米海軍が紛失した。」と語ってくれたことが印象に残っています。彼にマリアナ海溝のヒラメをもう一度見せることが夢だったのですが、それはもうかないません。ご冥福をお祈りいたします。